



## 真心込めた医療を提供し、皆様に愛される病院を目指します

### 慈英病院が担う医療機能について

地域医療構想で示された急性期から回復期、慢性期まで患者が状態に見合った病床で、状態にふさわしい、より良質な医療サービスを受けられる体制を作るという「医療機能の分化と連携」が着実に進んでいるように感じます。

当院は1984年に特例許可老人病院としてスタートしましたが、その後制度が変わるにつれて療養型病床群、療養病床と呼ばれるようになりました。従来は重度の障害をもつ患者さんが何年も入院している病院でしたが、平成18年から日本慢性期医療学会に毎年参加するようになり、そこでの学びを少しずつ積み上げて現在は多くの事ができる病院になりました。

急性期医療の継続、積極的なリハビリテーションを通じた在宅復帰支援、緩和ケア、認知症ケアなど療養病床は多くの役割を担ってきた病棟です。現在当院の療養病棟はこれらの機能を担っていますが、今後も療養病床が回復期機能の一端を担っていくことに変わりはないと考えています。

今後も、2つ病棟のうち一つでは、急性期病院から引き継いだ患者さんの病状と障害の改善を行いご自宅へ退院していただく事、もう一つは、長期療養患者に対する医療や緩和ケア医療を行なっていくこととなります。この方向で更に医療の質を向上させて、地域から信頼される病院であるべく取り組みを行っています。

～ 医療機能の分化で示されている4つの医療機能 ～

#### 高度急性期機能

- 急性期の患者に対し、状態の早期安定に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能

#### 急性期機能

- 急性期の患者に対し、状態の早期安定に向けて、医療を提供する機能

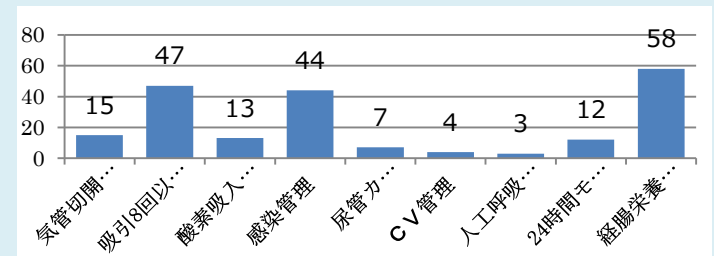
#### 回復期機能

- 急性期を経過した患者への在宅に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能
- 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頭部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）

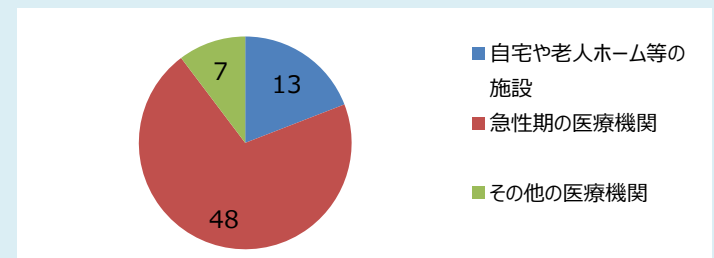
#### 慢性期機能

- 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能
- 長期にわたり療養が必要な重度の障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者を入院させる機能

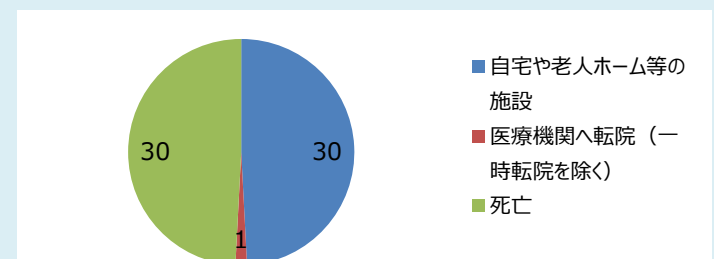
#### 当院が行っている主な医療処置の内容



#### 急性期病院や自宅等からの患者受入状況



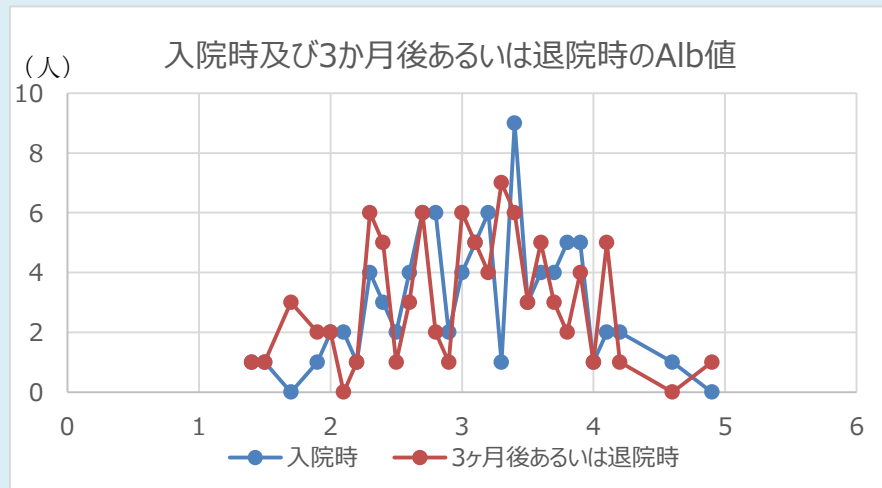
#### 在宅等へ退院される患者、終末期を看取る患者の状況



## 栄養サポートチーム（NST）活動の軌跡

患者さんの栄養に関する検討は、栄養管理委員会にて検討していました。その時は、医師、管理栄養士、看護師、言語聴覚士が中心となって実施していました。栄養サポートチーム（NST）を立ち上げるために、平成 28 年から準備を開始しました。医師も研修を受け、管理栄養士、薬剤師、看護師は、県立宮崎病院さんにお世話になりました。約 1 年間、月に 2 回程度の NST 研修会を夕方開催してくださいました。講義が終了したら、NST カンファレンスやラウンドにて活動の実際を学びました。それから更に 1 年が経過致しました。今年、準備が整い平成 30 年 4 月 2 日より栄養サポートチーム（NST）として活動を開始し NST 加算もとるようになりました。患者さんの栄養改善に向けてチームで一生懸命に取り組んでいきます。

### 1. 現状（平成 29 年 9 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日の入院患者 87 名のデータ）



#### 【Alb 値の低下が考えられる原因】

1. 食欲低下
2. 嚥下機能の低下
  - 1) 食事量が減少する
3. 病状の進行
4. 合併症の併発
  - 1) 嘔吐等に伴う誤嚥性肺炎等
5. 栄養手段変更の遅延



#### 【具体的な対策の検討】

1. 嗜好に合わせた食事の提供
  2. 食形態の変更
  3. 急性期病院との連携
  4. 歯科との連携
    - 1) 歯科医師、歯科衛生士との情報交換
  5. 患者さん、ご家族に対し栄養方法についての情報提供
    - 1) 経管栄養法（経管、胃瘻）  
経口摂取と経管栄養の併用含む
    - 2) 中心静脈栄養法
- ※経口摂取は、可能な限り継続する

### 2. NST カンファレンスの実際



#### 3. NST カンファレンス参加者

・医師、管理栄養士、薬剤師、看護師、理学療法士、言語聴覚士

#### 4. NST カンファレンスの進め方

・検査データに基づいて栄養評価を行います。

（検査値、身長、体重、BMI、栄養方法、投与量等）

・摂食嚥下委員会、褥瘡対策委員会、感染対策委員会等と連携を取ります

#### 【事例】

性別：女性 年齢：91 歳 診断名：虚血性腸炎に伴う廃用症候群

入院時データ：TP:5.7g/dℓ Alb:2.5g/dℓ 改善後データ：TP:6.6g/dℓ Alb:3.1g/dℓ

取り組み内容：1. 主食は全粥、副食は刻み食で開始 2. 補助食付加 3. 嗜好に合せ補助食の種類変更 4. 鎮痛剤の検討 5. 義歯調整 6. 義歯調整後米飯に変更

栄養サポートチーム（NST）での効果：多職種でのカンファレンスにより多方面からのアプローチができました。

## 第18回家族教室「着替え介助」について

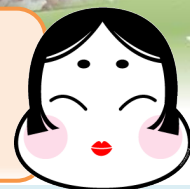
3月24日（土）研修図書室にて第18回家族教室が開催致しました。今回のテーマは「着替え介助」についてでした。麻痺についての説明、着替え介助の方法、参加者にも体験していただきました。皆様、熱心に取り組まれて、「初めて聞いたことばかりでした」という声も聞かれました。



## 花見と節分



満開の桜の元、本年度も当院前にある緑道公園へ花見に行きました！！  
桜を見た患者様からは沢山の笑顔が見られました♪  
節分では当院のスタッフが鬼へ変装し患者様と一緒に豆をまいたり、  
記念撮影を行いました。皆様とても楽しそうでした！！



## 月間デイの入賞

介護業界専門誌「月刊デイ」にて、通所リハビリテーション利用者の作品が入賞しました。3ヵ月かけて、全利用者で取り組んだことが評価され、利用者・職員共に喜んでます。これを、励みに、次回作品も頑張ります。



## くるみん認定の獲得

くるみん認定をご存じですか？

従業員が仕事と子育ての両立をしやすい職場をつくるための計画を立て、その目標を達成した事業所に与えられるものです。

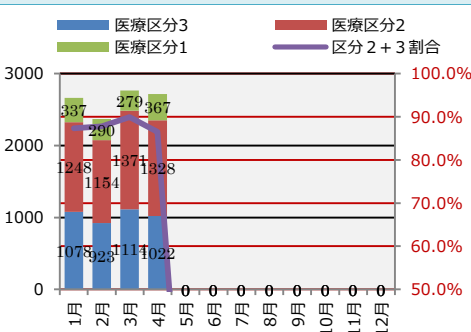
＜私たちの目標＞

- 1 計画期間中に男性社員が1人以上育児休業を取ること  
女性の育児休業取得率を75%以上にする
- 2 子の看護休暇制度の周知を行う
- 3 年次有給休暇の取得促進のための措置を講ずること

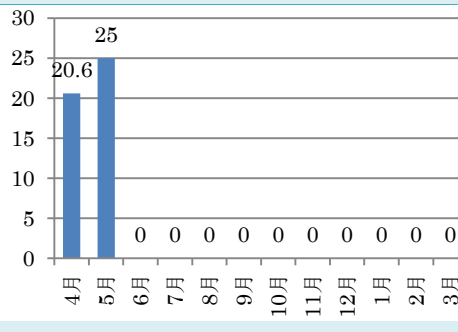


## クリニカルインディケータ 2018年(平成30年)

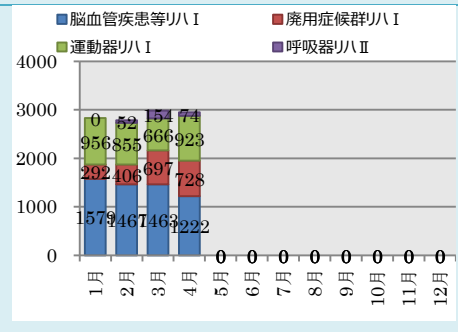
医療区分別入院患者数



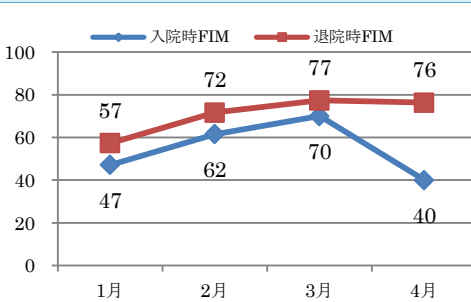
入院患者の重症度(看護必要度)



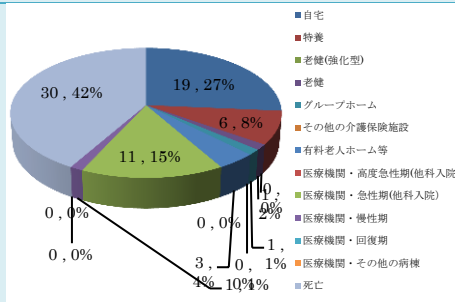
リハビリテーションの実施状況



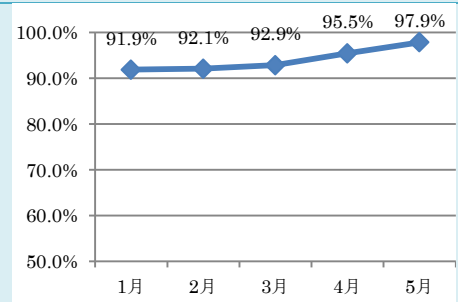
軽快退院患者のFIM評価点数(n=28)



退院先(2018.1~4; n=72)



在宅復帰率(2018.5.1現在)



医療法人社団 栄正



# 慈英病院

診療科目：内科・神経内科・リハビリテーション科  
〒880-0853 宮崎県宮崎市中西町160番地  
TE0985-23-5000 FAX 0985-23-5886  
URL : <http://www.jei.jp>

編集委員

江藤裕子 東洋一  
上原庸平 中村峻介  
荒竹浩和 仲田由加  
黒松和子 大岩根良太  
酒井晃 石田美由紀  
松本めぐみ